

(株)エルエルアイ出版. 8年目の木製サッシで新品同様の美しさ.
 新・住宅ジャーナル. 2014、通巻70号、p.24-25,50-51.
 より転載。 **口も驚愕!**

8年経過した木製建具サッシ ヒノキが新品同様の美しさ



埼玉県の東部で8年前に増築部の窓に設置した木製サッシが、良好な保存状態で残されているという話を聞きつけて取材班は現場に向かった。

降りしきる雨の中、訪問したのは、昭和4年に築造された母屋を持つ家。築85年になる旧家では、独特のゆがみをもつガラスが新緑鮮やかな庭の景色を映し出している。今では珍しい青銅製の戸袋に思わず目がいく。伝統ある母屋を大切にされているご主人は、少しずつ行ってきた増築の外まわりでも、木製建具の質感にこだわり、増築部の全面に木製サッシを使った。

この木製サッシを見て驚きの声をもらすプロがいた。木製サッシ製造業者の守谷和夫氏(有)守谷建具代表(62歳)である。

「ヒノキでも10年も経つと南側の日にやけるところは変色するんだよ。ま

検証 木製建具の経年変化



昭和4年に建てられた母屋に目がいく隣接する新築の増築部で木製サッシ採用



素材は桧で1500×2700mmの2枚立て。重さは約45kg。一枚が1500×900mmで複層ガラスが入っている。軒の出は約80cm



アルミ枠を使って木製サッシを設置 玄関や枠との変色差は一目瞭然

さか新品同然だとは思わなかったよ」
その品質の最大の秘訣は塗料にあるという。水性ウレタンで紫外線カット機能のついた塗料を塗装したところ、8年たっても新品同様。通常の塗料だと南側の窓枠は10年近く経つと陽にやけてくるが、紫外線の防止効果が生きていた。

「うちでやったのは木製サッシだ
している。北側も同様。下木の埋め節は、ホットメルトにベンガラを混ぜて埋めている。サッシ枠はサッシメーカーのアルミ枠をつけており、現地の建具屋が取り付けを行った。窓枠の棧や玄関ドアは米ヒバで黒く日やけていたが、木製サッシの枠だけは紫外線防止機能のある塗料のおかげで陽にあたってても新品同然だった。」

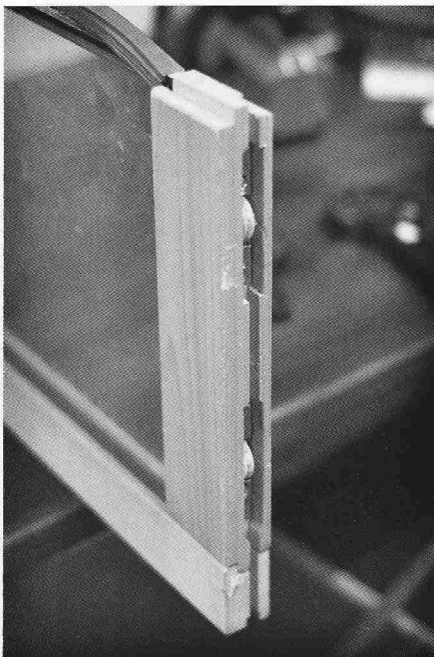
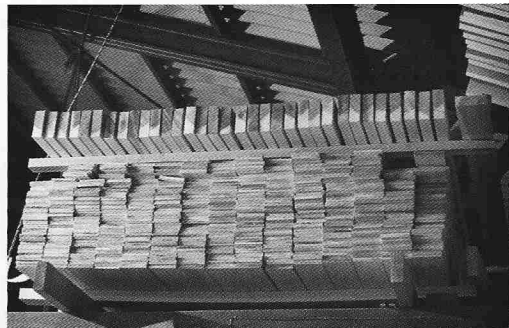
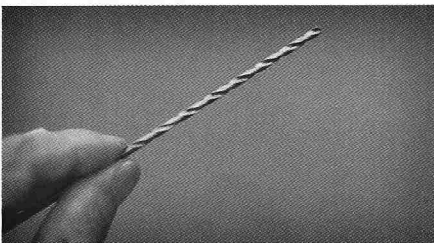
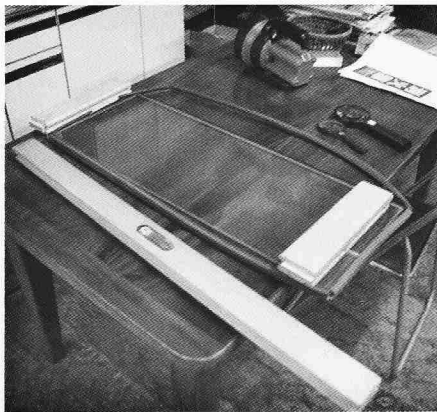
けだけど、どうせなら玄関もうちでやって同じ塗料を塗れば良かったよ」
この紫外線防止機能のついた塗料は、リッターで言うところと普通の塗料の2倍の価格となる。業者目線では材料費をできるだけ抑えるのが常であるが、お施主さんにとって材料費数千円の塗料でどっちがいいと聞かれ、通常、建具業者が、10年近く経った

建具の状態を見ることはまれで、今回は複層ガラスのガスが抜けて白くもったという連絡を受けて修理点検のためにガラスを持って訪問したところ、8年後の状態が実際に検証できたので、今後はこの塗料を積極的に採用していきたいという。特に南面は紫外線の影響が大きいので、窓だけではなく玄関まわり全体で使うように設計士や施工主向けに提案していきたいと守谷氏は語る。

(P 50に続く)

木製サッシの作り方

- ① 国産ヒノキの板目材を3年間養生する
- ② 板目を削って寸法を整える
- ③ 框と下棧を加工する
- ④ 框にビス用の穴、下棧に水ぬきの穴をあける
- ⑤ 仮組みした建具に塗装する
- ⑥ パッキンをつけた複層ガラスをはめこむ
- ⑦ 戸車、把手、カギをとりつけて完成
- ⑧ 現場でアルミ枠をはめ込み木製サッシを建てつける



ビデオ：木製サッシの作り方（約15分）

守谷建具ホームページ（You Tube）で公開中

紫外線防止塗料の効果検証 守谷建具のヒノキのサッシ

（P25より続く）

一般的にアルミサッシの数倍の価格と言われる木製サッシであるが、比較的安価に製造できる秘訣は柾目ではなく、板目を用いているためである。3年近く自然乾燥させた柾の

木裏を窓の外側に向けている。サッシは窓ガラスが割れた時などの修理のために、ビス一本でいつでも框と棧を外せるようにしている。ビス止めには、3mmの長いキリをつかって各ノミで穴をあけている。素材が板目なので、通常の錐やドリルではどうしても木目にあたって穴がまがってしまふ。そのため木工用ではなくて、鉄工用のドリルの形状にして、半年間研磨して型をつくって板目専用のドリルの形状（特許）にした。また、塗料を効果的に塗るための工夫として、サッシの下棧のほぞが框に入るところは、1分5厘の面をとっている。面をとることで小口にまで塗料をしみこませることが容易になる。

一般的な木製建具のサッシで劣化が置ける原因の一つに、框の下部に負担をかけすぎることがある。多くの木製建具のサッシは框の下で下棧を支えて戸車もつけている。ここに窓の溝から垂れ下ってきた結露や雨だれの水がしみこん

でいき、ついに木部が腐食して穴があいてバラバラになる。そのため木製サッシの引戸は弱く、傷みやすいと言われてきた。この構造的な弱点を補強するために、框の下部に水抜きをつけて、下棧を框に通し、ほぞの先にも少し隙間をつけて雨だれを通して水切りをつ

けている。このように戸車を框の下ではなく、見付け90mmの下棧の下につけることで耐久性を高めている。先月大阪から依頼を受けて、自宅兼モデルハウスの窓に製作。インターネットで見え依頼してくるケースが多く、取り付けは地元の建具業者に委託するケースが多いという。